

# 2015年度 第4回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（確定稿）

- 開催日時：2015年11月10日（火）18時30分～20時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室（4階）
- 出席委員：阿部恵子、五十嵐強、辻信明、野崎信行、安富眞理子、渡辺裕一  
＜以上6名、敬称略、五十音順＞
- 出席職員：丸木福祉活動推進課長、中澤ボランティア・市民活動センター係主任、  
嶋田主事、長山コーディネーター

## 【配布資料】

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(2015年9～10月)
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告(2015年9月～10月)
- 資料 3：ボランティアコーディネート実績(2015年9～10月)
- 資料 4：2015年度西東京ボランティア・市民活動センター予定表（10～11月）
- 資料 5：2015年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録  
＜未定稿＞
- 資料 6：ボランティア・市民活動センター事業の課題と事業実施の工夫について
- 資料別冊：2015年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録＜確定稿＞
- 配布資料1：ぼらんていあ倶楽部第87号

## 1. 報 告 事 項

### (1). 2015年度9月～10月西東京ボランティア・市民活動センター業務報告について

- 事前配布の資料3について、10月～11月分として送付していたため、9月～10月分に差し替える旨の訂正を行う。また、当日配布資料として、夏！体験ボランティアアンケート集計結果とボランティア活動をはじめめるための施設見学会のチラシを配布する。
- 事務局より資料1～4に基づき、2015年9月から2015年10月末までの業務について報告を行う。
- 以下、質疑、協議が行われる。  
委員長：ご意見、ご質問をお願いしたい。  
委 員：ボランティア活動をはじめめるための施設見学会については、見学先の施設から要請があったのか。  
事務局：当センターから依頼した。  
委員長：ボランティアミニ講座の参加者や施設から要望があって実施をしたものなのか。  
事務局：施設からの依頼が常々あるため、ミニ講座の後期については施設の協力を得つつ、施設での活動をボランティア活動のきっかけとするものとした。  
委員長：対象者は、前期の受講者なのか、それとも別か。  
事務局：前期とは別である。

- 委員：「ボランティア活動をはじめめるための」という記載はあるものの、施設見学会に見える。ボランティア活動をはじめってもらうためには仕掛けが必要だと思う。どういう経験をすることができるのかがとても大切である。施設から期待されていること、ボランティアとしてやってみたくと思えることが見えると良い。ボランティア活動の価値や意味、ボランティア活動はできることから始められるものであることなど、施設見学会を通して伝えることは難しいことのようにも感じるが、仕掛けをすることでうまくいくことに期待したい。
- 委員：実際に施設でボランティア活動をしているので、いろいろな活動を見学することで自分にもできるボランティア活動を見つけては始めるということは理解できる。これなら見てみたいというものを増やすことが新しい人を増やすことにつながるかもしれない。
- 委員：実際に活動している人から、なぜその活動をしているのかを聞くことができないと活動の意味が伝わらないので、活動者の増につながらない。
- 事務局：今回の施設見学会では実際にボランティアが活動している場面を見て、各施設の担当者から話を聞いたのち、活動しているボランティアと話をすることができるようにしている。文字や言葉だけでは伝えることのできないものを伝えることができると思う。
- 委員：更に工夫があるとより効果的になると思うので、考えていきたい。
- 委員：日にちごとに、どのようなボランティア活動があるのかがわかれば、興味のある内容について行ってみようと思うかもしれない。
- 委員：今回は4か所全てが高齢者施設であったが、ボランティア活動の入り口として考えた場合、他の分野を含めた多様性があっても良いかもしれない。
- 委員：次に相談受付の件数表記が少ないと思う。
- 事務局：相談はあるものの電話で済んでしまうような軽微な相談については件数として拾っていない。拾い方を改善したい。
- 委員：総合学習の件数は多くなっている。小・中学校に複数回時間を取ってもらうことはなかなかできないことであるので、体験をしたことだけで終わることのないように、プログラムができていないか、試行錯誤がされているかを確認していく必要がある。これまでのやり方にとらわれることのないような仕掛けが大切である。
- 委員：総合学習というものを学校としてどのように扱っているのか詰めないとうまくいかない。一教諭とのつながりというよりは、学校とのつながりを作っていく必要がある。
- 委員：協力してくれている人たちでチームを作り、子どもたちへの伝え方を学んでも良いかもしれない。
- 事務局：現在の課題として、先生と一緒に授業を作り上げていくことができているというところが挙げられる。ご意見としていただいた部分を行っていくためにも取り組んでいきたい。
- 委員長：仕掛けを考えて一つずつ丁寧にやっていっていただきたい。
- 委員：登録をしたが活動をしていない人がいる。再び活動をしてもらうためのアクションも必要だと思う。例えば自分の名前が入っている案内をもらうと効果的かもしれない。
- 委員：プレッシャーにならないよう配慮する必要もある。
- 委員長：やみくもにやるのではなく、戦略と戦術を立てる必要がある。
- 委員：ボランティアを異端としない文化づくりのためにも、次世代の人材育成を目的とした学校での福祉体験の授業のサポートとボランティア活動への関心を高める働きかけが大切となる。

## 2. 審 議 事 項

### (1). 2015 年度第 4 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿) について

- 2015 年度第 4 回運営委員会の記録について確認を行う。確認終了したので確定稿にする。

## 3. 協 議 事 項

### (1). 今後の方向性について

○事務局より資料 6 について説明を行う。

委員長：ご意見、ご質問をお願いしたい。

委員：総合的な学習の時間への協力の欄について、今まで知らなかったメニューが載っている。学習のテーマについては、各学校ごとに例えば認知症のことなどいろいろと考えているが、点字については、4 年生の国語の教科書に出てくるので、子ども達が自分が調べたいことに沿って学んでいくため、総合的な学習の時間の調べ学習を重ね合わせて行っており、ボランティア・市民活動センターには実際の体験や当事者の紹介などの協力をお願いしている。総合的な学習の時間の流れに沿って授業が進んでいくので、先ほどからいろいろと出ている意見を組み込むには難しい面もあるが、体験の場を教員がコーディネートするのか、社協の職員がコーディネートするのかで、内容がかなり異なってくるのではないかと思う。教員と打ち合わせをしながら社協の職員がコーディネートすることで体験の中にいろいろなことが盛り込んでいけるのではないか。学校としても体験の種類や時間にあまり長い時間を確保することはできないと思うので、総合的な学習の時間プラス、人権教育の充実がうたわれていることから、そのあたりを踏まえ協力してもらえると良い体験学習につながると思う。ただし 4 年生で行うことが多いため、その記憶がいつまで残るかについてはよほど強い印象を受けたものを除けば、薄れていってしまうことが多いのかもしれない。まず安全面に配慮する必要があるので体験の程度には限度がある。なお認知症サポーター養成講習会については、校長会で説明があった。高齢者が増えていくので、障がい者のことだけでなく、高齢者のことも大切だと思っている。

委員：弱者観を植え付けるようなプログラムにしないということも大切ではないかと思う。また、4 年生で行ったことが忘れないうちにもう一度やれるようになると良いと思う。プログラムとしてつながることで、ボランティアが文化として浸透していくようになる。

委員：親子で参加できる地域のイベントなども活用できると良い。

委員長：前回配布の資料と今回配布の資料にギャップがありすぎる。前回の資料にはやり方が載っていたが今回の資料には載っていない。また項目と内容についても不整合を感じる。

いま取り組むべきところを絞り込む必要がある。

事務局：資料 6 に記載されているものが現在の当センターの業務である。委員の皆様から意見をいただく中で、改善と充実を図りたい。

委員長：研修や講習の主催が主たる業務になるのか、あるいはボランティア活動をどのように援助していくのかを考えることなのか。このことは大事だと思う。これに加えて介護保険法の改正等、時流に沿った業務が求められていると思う。そのためにふれまちや地域福祉コーディネ

- ーターとの連携が求められていると思うが、ネットワークづくりの欄中に記されていない。
- 事務局：今、ご指摘をいただいた部分を委員の皆様からご意見をいただく中で考えていきたい。特に多者連携については不十分であると感じているので、充実させていく必要を感じている。
- 委員：それぞれの事業、ねらいに対するノウハウが示されていない。どのようにやっているのかわからない。全体の枠として何をやっていくのかという議論と個々の事業をどのようなノウハウでやっていくのかという議論のそれぞれが組み合わさってアクションプランになるのではないかと感じる。
- 事務局：職員も一緒に議論の輪の中に入って進めていきたい。現状を良くするためのご意見をぜひいただきたい。5年程度の中期的な見通しを当センターとして持つべきだと思っている。ただし、当センターのミッションについては明確となっており、過去の運営委員会において決められ、踏襲していくことを確認している。資料6の項目の部分に記されているかっこ内の縦書きの項目「つなげる、いかす、うみだす」の3つのキーワードがミッションである。個々の事業名については都度変更になるが、組み立て自体は、ミッションの下に行っており、ミッションの実現のために必要な事業を記している。ただし、時流にマッチしていないということもあるかもしれないので、その組み替えも含めて中期的に3つのミッションの実現のために当センターが重点的に何をしていくべきかをまずは大枠の部分として議論をしていきたい。まもなく28年度になるが項目の全てを入れ替えることは時間的に今からではできないと思うので、この事業を残すとしてもここは少し力を入れてやってみる、力を入れるのであればこういう視点で取り組んだら良いといった意見を28年度の事業についてはいただくということを並行してあと2回の委員会の中でご意見としていただきたい。職員も、このようなことを視野に入れて資料を作成していると思うので、運営委員会でいただいた意見と職員の想いを入れた資料を次回は提出したい。なお、講座の定員設定についてであるが、何人集めたいのか、集めるためにはどのような工夫をしなければならないのかを職員一人一人が考える必要がある。例えば、ボランティア登録をしているが活動をしていない人に手分けして個別に連絡をすることでも参加者を増やすことはできるかもしれない。他にもボランティア活動をしたいとは思っているが、活動につながっていない人がどこに集まっているのかを考えて広報をしていく必要もある。チラシを配布してホームページに掲載することで広報が終わったと考えてしまいがちであり、本来の広報の目的と何をすべきかという点が欠けている。こういう資料をつくる中でも職員が工夫すべき点は考えていきたい。
- 委員長：どうやっていけば良いかをここにいる全員で考えていきたい。重点目標を考えることで中期目標も見えてくると思う。
- 委員：会議で決まったことがぼんやりしている。項目はこれで良いと思うが力を入れるべき項目を絞った方が良いのではないかと感じる。また課題と問題は分けて考える必要がある。短期的、中期的、重点項目、優先順位といったものをはっきりと打ち出して事業計画をつくるとテーマが絞られてくる。
- 委員長：次回は、重点的に取り組むべきことを何にするかについて話し合いたい。
- 委員：何かを決めることができるのか。
- 委員：次回までに考えてくることを宿題として出してくれるとやりやすい。
- 委員長：そのことを含め、今後の運営委員会で考えられると良い。

事務局：運営委員会ごとに何らかの結論を出すということについては、今議論しているような中期的なことや来年度の事業にどのように反映させていくかといったものについては、最終的に結論を出すのは来年の3月頃、中期的なものについては28年度の中頃位になってしまうかもしれない。その間の意見の連続性をもって、一つの成果物ができるという認識でいるので、会議ごとに結論を出すということは難しいと思う。

委員：28年度の事業計画に間に合うような議論をする必要はないのか。

事務局：せめてこれについてはというものがあれば、1月に結論を出さなければ間に合わなくなる。

委員長：どのことについて重点的に議論すべきかを発言できるように次回までに考えておいて欲しい。

○事務局より当日配布資料に基づき、夏！体験ボランティア西東京2015の参加者アンケートの集計結果について報告を行う。

## 4. そ の 他

### (1). 次回運営委員会開催日程について

●以下の内容を確認した。

■開催日時：平成28年1月12日（火）18時より19時30分まで

※終了後懇親会を行う。

■開催場所：田無総合福祉センター第3会議室（4階）

●以上をもって、2015年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議、協議を終了し、閉会した。